

令和5年度
ふるさと島根寄附金活用事業成果報告書
～寄附金を活用した事業～

誰もが、誰かの、
たこからもの。

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根*創生
SHIMANE SOUSEI

(問い合わせ先)

〒690-8501 松江市殿町1番地

島根県政策企画監室

電話番号：0852-22-6840

FAX番号：0852-22-6034

電子メール：kifu@pref.shimane.lg.jp

～目 次～

I	活用成果の概要	-1-
II	寄附金を活用して実施した事業の成果	-3-
1	新型コロナウイルス感染症対策に関する事業	-3-
2	産業の振興に関する事業	-5-
3	自然環境の保全に関する事業	-11-
4	医療・福祉の充実に関する事業	-15-
5	教育・文化の振興に関する事業	-21-
6	子どもの読書活動の促進に関する事業	-29-
7	竹島の領土権の確立に関する事業	-32-
8	森林の保全及び整備に関する事業	-35-
9	防災対策の推進に関する事業	-36-
10	移住・定住の促進に関する事業	-39-
11	結婚・出産・子育ての支援に関する事業	-42-

I 活用成果の概要

寄 附 メニュー	寄附を活用した 事業費（千円）	令和4年度 寄付額（円）	令和5年度 寄附額（円）
新型コロナウイルス感染症対策	4,013千円	2,415,162円	1,163,702円
産業の振興	11,522千円	1,520,000円	※1 2,080,000円
自然環境の保全	5,869千円	2,540,000円	1,995,000円
医療・福祉の充実	4,548千円	2,085,000円	2,174,000円
教育・文化の振興	3,290千円	2,100,000円	2,720,000円
子どもの読書活動の促進	2,756千円	2,220,000円	1,850,000円
竹島の領土権の確立	5,185千円	4,039,905円	3,206,905円
森林の保全及び整備	3,974千円	365,000円	750,000円
防災対策の推進	954千円	445,000円	1,511,000円
移住・定住の促進	46,816千円	3,125,000円	190,000円
結婚・出産・子育ての支援	1,218千円	2,145,000円	※2 1,540,000円
指定なし	—	10,110,300円	※3 6,310,600円
合計	90,145千円	33,110,367円	25,491,207円

いただいた寄附は、ふるさと島根基金に積立て、前頁のとおり令和5年度の事業に一部を活用させていただきました。

お寄せいただいた寄附が目標額に達しなかった場合は、これまでに積み立てた基金から不足額を補い、目標額を超えた場合は、次年度以降に活用します。

★令和5年度は1,324件、25,491,207円の寄附をいただきました。

※1 「産業の振興」への寄附金の一部は、「移住・定住の促進」に配分。

※2 「結婚・出産・子育ての支援」への寄附金の一部は、「医療・福祉の充実」と「子どもの読書活動の推進」の事業と併せて活用。

※3 「事業の指定なし」分は、「移住・定住の促進」に配分。

Ⅱ 寄附金を活用して実施した事業の成果

1 新型コロナウイルス感染症対策に関する事業

(1)対象事業

患者サービス向上に係る環境整備事業

(2)事業の成果及び事業費

患者満足度の向上を図るためパルスオキシメーターと車椅子を更新しました。
事業費：4,012,935円

(3)補助実績

①パルスオキシメーターの更新

安全なリハビリテーションを目的とし、パルスオキシメーターを全60台（外来・病棟部門42台、リハビリテーション室18台）更新しました。

種類としては、汎用性が高いもの、小児や高齢など微細な循環状況に対応できるもの、重症患者リハビリに対応できるものの3種類にしました。

②車椅子の更新

外来部門では、購入時から一定期間経過し、古く劣化した車椅子が多数ありました。

この度、全24台を更新しましたが、腕置きが跳ね上げ式となっており、検査台などへのスムーズな移乗に対応しています。

また、足置きが外側に開くことで、乗り降りのスペースが確保しやすく、介助時には介助者にとっても非常に有効な仕様になっています。



※パルスオキシメーターの更新



※車椅子の更新



2 産業の振興に関する事業

(1)対象事業

- ①出雲コーチン種生産対策事業
- ②未来へつなぐ工芸品総合振興事業
- ③島根県グローバル人材育成支援事業

(2)事業の成果及び事業費

①出雲コーチン種生産対策事業

在来種鶏「出雲コーチン」を活用した地鶏肉の生産体制の確立に向け取り組みました。

事業費：1,000,000円

ア 令和4年度までの取組と成果

- ・生産者、JA、出雲市、出雲農林高校、畜産技術センターを構成員とする「出雲コーチン利用促進協議会」を設立しました。
- ・原種の保存に必要な施設を整備しました。
- ・出雲市内の飲食店でコマーシャル鶏を販売しました。

イ 令和5年度取組と成果

(ア) 出雲コーチン原種の保存（増殖）

- ・県畜産技術センターで原種を飼育し、原種の保存と増殖を図るとともに、伝染病等による原種絶滅のリスクに備えて、施設（鶏舎、周辺フェンス）等の点検や石灰消毒を実施しました。

(イ) 農林高校における研究教材としての活用

- ・出雲農林高校において、「出雲コーチン復活プロジェクト」の一環として、原種の保存、繁殖性及び肉質・卵質の向上に向けた各種研究に取り組みました。
- ・移動動物園での展示等を通じて、出雲コーチンの認知向上を図りました。

(ウ) 飼育方法の確立・コマーシャル販売

- ・協議会等で実施した調査結果や実際の飼養管理及び生産成績等から、鶏肉生産に適する交配種を選定し、コマーシャル鶏の飼育方法を確立しました。
- ・コマーシャル鶏は、出雲市内の飲食店で年間約500羽提供されました。



※コマーシャル鶏舎の様子

②未来へつなぐ工芸品総合振興事業

東京都及び大阪府で開催される伝統的工芸品展に島根ブースを設け、首都圏及び関西圏の消費者に島根県の伝統的工芸品のPRを行うことで、県内の工芸品の販路拡大を推進しました。

（一財）伝統的工芸品産業振興協会が主催する伝統的工芸品展が、東京会場と大阪会場の2会場で実施されました。

島根県からは、大阪会場に5事業者、東京会場に3事業者が出展し、島根県の伝統工芸品のPRを行いました。

事業費：1,547,390円

<大阪会場>

- ・開催日：令和5年7月12日 ～ 令和5年7月17日
- ・会場：阪急うめだ本店（大阪府大阪市北区角田町8-7）
- ・出展者：○伝統的工芸品製造事業者：石州和紙（かわひら）
○ふるさと伝統工芸品：
松江彫（工房とんぼ）、長浜人形（島根の招き猫工房）
八雲塗（八雲塗やま本）、出雲めのう細工（（株）めのや）

<東京会場>

- ・開催日：令和6年2月23日 ～ 令和6年2月28日
- ・会場：松屋銀座（東京都中央区銀座3-6-1）
- ・出展者：○伝統的工芸品製造事業者：出雲石灯ろう、石見焼
○ふるさと伝統工芸品：出雲めのう細工（（株）めのや）



※伝統的工艺品事業者（国の指定）石州和紙



※ふるさと伝統工艺品事業者：大阪会場

③島根県グローバル人材育成支援事業

島根県内企業でのインターンシップや海外留学等を通じて、卒業後、県内産業・地域活性化に貢献するグローバルな人材を育成し、県内への定着を図ることを目的として、県内外の高等教育機関に通う学生を選定し派遣を行いました。

事業費：8,974,666円

ア 留学支援

・令和5年度は6名の学生の海外留学を支援しました。

所属	留学先	留学タイトル
島根大学	インドネシア	島根県からの海外進出を目指して-島根県とインドネシアの架け橋となる-
島根大学	デンマーク	北欧独自の教育機関から学ぶデンマークの教育価値観～日本・島根にお持ち帰り～
島根大学	インド	医療とそれを取り巻く社会問題について考える&心を鍛える！in Kolkata
島根大学	オーストラリア	お茶×教育で日本や島根県の魅力を世界へ発信しよう！
島根県立大学	中国	中国の観光市場調査からみる島根県の観光事業
鳥取大学	イギリス	高齢化と多文化共生時代に医療職に求められるコミュニケーションスキルと資質を学ぶ

留学開始前に、留学生による丸山知事への表敬訪問を実施しました。

<https://www.tobitate-shimane.jp/news/75>

イ コミュニティ活動

・学生コミュニティ活動として、以下のとおり実施しました。

内容	詳細	講師
第1回セミナー (オンライン)	テーマ「留学→IT企業就職→起業への道のり」	サトラボ合同会社 佐藤 和輝氏 (留学生OB)
第2回セミナー (オンライン)	テーマ「時代を駆ける第一次産業の経営展開」	株式会社松永牧場 松永 和平氏
大交流会	メンバー間、支援企業との交流 1日目内容：メンバー間交流、講演、	台雲酒造合同会社 陳 韋仁氏、

	<p>ディスカッション 講演テーマ「台雲酒造-台湾人杜氏の物語」 2日目内容：支援企業との交流</p>	支援企業3社
第3回セミナー (オンライン)	<p>テーマ「島根からシンガポール行ってみた！～留学の経緯と現状をシェア～」</p>	<p>松江工業高等専門学校 藤原 涼（2022年度第8期留学生）</p>
第4回セミナー (オンライン)	<p>テーマ「私の考え方の軸～海外、国内生活を経て～」</p>	<p>津和野町議会議員 大江 梨氏</p>
第5回セミナー (オンライン)	<p>テーマ「島根と繋がる学生コミュニティ」</p>	<p>有福商店共同代表 長友 大晟氏、 藤田 愛氏</p>



丸山知事と留学生5名



留学計画発表の様子



集合写真（大交流会）



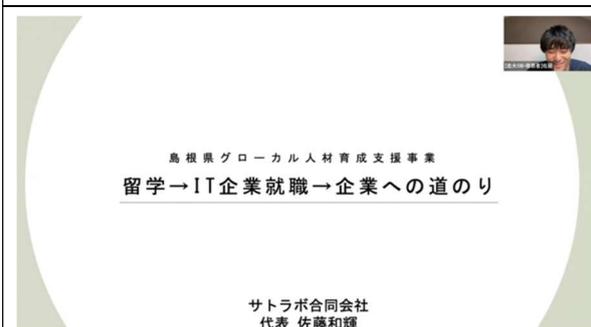
歓談の様子（大交流会）



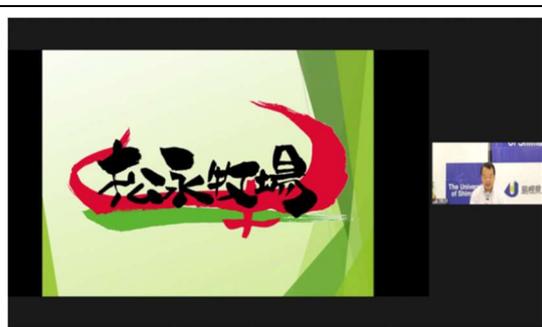
グループトーク



テーマ別ディスカッション



第1回セミナー



第2回セミナー



第3回セミナー



第4回セミナー



第5回セミナー

※コミュニティ活動の実施状況

3 自然環境の保全に関する事業

(1)対象事業

- ①宍道湖・中海賢明利用推進事業
- ②生物多様性保全事業

(2)事業の成果及び事業費

①宍道湖・中海賢明利用推進事業

自然豊かな宍道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高め、ラムサール条約の柱である、保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境教育・交流・普及啓発の事業を実施しました。

事業費：4,967,394円

ア 水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業

(ア)湖沼環境モニター調査

- ・周辺住民の参加により、人の五感で宍道湖・中海の評価を行う「湖沼環境モニター」事業を実施しました。（モニター数90名、3団体）

(イ)宍道湖・中海流入河川調査

- ・小中学校や公民館等で流入河川の水質等の調査を行ってもらい、学習発表会やポスター作成などの優秀な取り組みを行った団体を表彰しました。

（参加団体 33）



※「宍道湖・中海流入河川調査」の様子

イ ラムサール・大型水鳥啓発事業

(ア) こどもラムサール交流会

- ・愛知県のこども達を招待し、中海・宍道湖周辺で日頃から活動している鳥取・島根両県のこども達と交流を図りました。(参加延べ人数 85名)



※「こどもラムサール交流会」の様子

(イ) ワイズユースイベント

- ・中海周辺をサイクリングやランニング、ウォーキングで自由に巡る「中海バイク&ラン+(プラス)」をスタンプラリー形式で行いました。(参加人数160名)

ウ 大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業

- ・トキ・コウノトリが生息できる田んぼビオトープの設置や親子を対象とした調査イベント「田んぼで生きもの探し」を県、出雲市、雲南市及び民間団体などで構成する協議会の事業として開催しました。



※大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業：「田んぼで生きもの探し」の様子

②生物多様性保全事業

生物多様性を保全し、しまねの豊かな自然環境を守るため、近年問題となっている外来種に関し県民の問題意識向上を図りました。

各地域の貴重な自然に悪影響を与えている外来種の駆除の取り組みを行い、外来種による被害の拡大を防止するとともに、生物多様性の保全を行いました。

事業費：901,590円

ア セイヨウスイレン駆除

- 大山隠岐国立公園三瓶地区の姫逃池において県の天然記念物カキツバタ群落の保全のため、セイヨウスイレンを被覆シートで覆うことで光合成を阻害し、駆除を実施しました。



※セイヨウスイレンを被覆シートで覆うことで光合成を阻害して駆除（姫逃池）

イ ミシシippアカミミガメ駆除

- 河川等に定着しているアカミミガメについて、地元住民と協力し、駆除及び普及啓発活動を実施するとともに、駆除用の冷凍庫を県内市町村へ配備しました。



※アカミミガメ駆除用の冷凍庫を県内市町村へ配備

4 医療・福祉の充実に関する事業

(1)対象事業

- ①がん関連図書整備事業
- ②がん患者社会参加応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）
- ③障がい者芸術文化活動支援事業
- ④戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業
- ⑤障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

(2)事業の成果及び事業費

①がん関連図書整備事業

がんに関する知識の普及を図るため、がんの一般知識、闘病記、小児・AYA世代に関する図書等を購入し、県立図書館に設置しました。

事業費：100,000円

令和5年度は、寄附金の活用により、がんの最新情報が掲載された新刊図書を購入し、9月の「がん征圧月間」に図書館に配置されているがん情報に関する図書を紹介するコーナーを設置して、がん情報を広く閲覧いただくことができました。

<内訳等>

冊数 26冊

補助額 100,000円（内、ふるさと島根寄附金100,000円）



※がん関連図書紹介コーナー

②がん患者社会参加応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）

がん治療によって乳房切除や脱毛などを余儀なくされた患者さんに対し、補正下着及び医療用ウィッグの購入費を助成することで外見変化に関する悩みを軽減し、社会生活参加を促しました。

事業費：2,398,000円

令和5年度は、県のホームページ（しまねのがん対策）や県内のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターなどで広報を行い、幅広い年代の方にご活用いただきました。

<内訳等>

件数 139件（ウィッグ112件、補正下着27件）

補助額 2,398,000円

（内、ふるさと島根寄附金2,100,000円）

※2万円を上限とし、購入金額の1/2を助成

事業初年度（H29年度）と比較すると申請件数は1.9倍以上の過去最高の支援となり、助成を受けられた方からは「ありがたい」「とても助かる」などの感想をいただいています。

この事業が広まるとともに、がん患者の就労等の社会参加の促進や療養生活の質の向上に寄与していると考えます。



※医療用ウィッグ等の広報

③障がい者芸術文化活動支援事業

障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加を推進することができる文化芸術活動支援の体制づくりの一環として、作品集を作成しました。

＜作成部数＞1,000部　＜配布箇所＞出展者、事業所等

事業費：500,000円

- ・島根県障がい者文化芸術活動支援センターを広く知ってもらうための広報ツールとして活用しました。
- ・障がい者の作品や障がい者芸術文化活動に取り組んでいる事業所・団体等の情報が掲載されているため、県内の芸術文化活動を紹介するツールとして、関係機関等の情報共有に活用しました。
- ・文化芸術作品のアーカイブとして活用しました。



※島根県障がい者アート作品展作品集

④戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業

県内の戦没者遺族会が設置する孫・ひ孫等で構成される会（以下「孫・ひ孫等の会」という。）が行う、語り部養成研修会開催事業及び語り部等継承活動に係る事業に対し必要な補助を行い、もって戦争を経験していない世代へ、戦争体験を継承し、戦争非体験者に語り継ぐことを目的とするものです。

事業費：138,000円

ア 孫・ひ孫等の会が開催する語り部養成研修会関係

- ・日時：令和5年11月23日、令和6年2月4日
場所：雲南市大東体育館（会議室）
- ・ベテランの語り部が講師となって、受講者（孫・ひ孫等）の語り部としてのスキルアップを図るものです。戦時中の資料（書籍等の参考文献）の読み合わせ、戦争体験の聴講、話し方（技術）などを6名の孫・ひ孫等が学びました。



※孫・ひ孫等の会が開催する語り部養成研修会（令和5年11月23日）

イ 孫・ひ孫等の会の会員が行う語り部など継承活動関係

- ・時期：令和5年5月～令和6年2月（計11回）
場所：雲南市内小学校（うち11校で実施）
- ・いずれも孫・ひ孫等の会が学校等との連絡調整を行いました。
ファシリテーターとして参画し基礎知識の資料の提供・説明を行い、語り部としてのスキルアップを図るものです。
- ・受講者（児童生徒）はベテランの語り部から様々な戦争体験を聴講し、平和の意義を学びました。

<開催実績>

西日登小学校（5月22日／20人）	木次小学校（5月26日／55人）
寺領小学校（6月8日／15人）	三刀屋小学校（6月14日／35人）
斐伊小学校（7月3日／29人）	海潮小学校（7月4日／38人）
佐世小学校（9月20日／15人）	加茂小学校（10月5日／55人）
大東小学校（1月23日／52人）	西小学校（2月20日／25人）
阿用小学校（2月22日／10人）	



※学校等での継承活動（令和6年1月23日／雲南市立大東小学校）

⑤障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるための「ヘルプマーク」の普及を図り、必要とされる方に交付しました。

事業費：1,411,630円

- ヘルプマークのPRのため、フェイスブック広告、インスタグラムの配信を行い、効果的な周知に努めました。
- 障害者週間に合わせてあいサポート運動とヘルプマーク啓発用前幕をバス80台に掲載しました。
- 障がいの特性や必要な配慮を学び実践する「あいサポート運動」の啓発冊子にヘルプマークの意味や必要な援助を盛り込み、ヘルプマークへの理解を促進しました。

ヘルプマーク交付数685枚、あいサポート研修回数156回



ヘルプマークを知っていますか？
援助が必要な方のためのマークです。

外見からは分からなくても援助が必要な方がいます。
このマークを見かけたら、バスや電車内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。

Do you know this symbol?
The Help Mark was developed to be used by people with hidden impairments or conditions that are not readily apparent to others.

People with such conditions may require assistance.
Please be considerate toward those displaying the Help Mark badge by giving up your seat and offering assistance as needed.

ヘルプマークは、県及び市町村の障がい福祉担当課で交付しています。
You can receive a Help Mark from your prefectural or municipal government's Disabled Persons Welfare Division.

千葉県障がい福祉推進センター
千葉県障がい福祉推進センター

千葉県障がい福祉推進センター

5 教育・文化の振興に関する事業

(1)対象事業

- ①県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業
- ②島根県立美術館「島根ゆかりの美術」調査研究及び普及啓発事業

(2)事業の成果及び事業費

①県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業

グラントワの設計者である内藤廣の仕事を紹介する企画展にあわせ、展覧会および建物の親しみやすいガイドと、島根県の名建築とされる建物の詳細を解説するパンフレットを制作しました。

事業費：1,041,077円

内藤廣氏は、日本を代表する建築家です。

その内藤氏の代表作とされるグラントワで大規模な回顧展を開催するにあたり、来場者に建物と内藤氏の魅力をよりよく伝えるため2つのツールを制作しました。

<成果物>

ア 展覧会鑑賞ガイド

- ・制作部数：10,000部
- ・配布先：展覧会入場者（会期中のみ）
- ・展覧会およびグラントワの建築の見どころをイラスト入りで親しみやすく案内するガイドです。

内藤氏の仕事の幅広さや、建築の魅力を紹介しました。

イ 建築案内パンフレット

- ・制作部数：40,000部
 - ・配布先：来館者（希望者）
- 残数は、当美術館及びグラントワにて継続的に活用予定です。
- ・グラントワの建物自体が一級の美術品ともいえるものであるため、国内外から建築を目当てに訪れる来館者が多いです。

建築の専門家にも満足いただけるよう、内藤廣建築設計事務所監修のもと写真や図面を掲載した日英併記の建築案内を作成しました。

内藤廣さんの中に「赤瓦」と「青瓦」が
この展覧会の案内図です。

マツメ・ケル
は「青瓦」

小泉純一郎の自筆
「赤瓦」

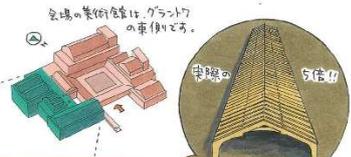
赤瓦と青瓦が、それぞれ建物の見どころや
お楽しみポイントを示しています。

建築家・内藤廣

Built & Unbuilt

2023 9月16日(土) - 12月4日(日)

鳥根県立石見美術館



Built 実現した建物
「Built」は実際にできあがった建物のこと。
詳細の手と脚にこのグラントフの原型を置き、それ
以前と以降の建物を分けて紹介します。



Built & Unbuilt
も繋ぐもの

海の博物館の11階建て見本棟
の壁紙(厚紙)も5階に併せ
ておいたという空想の建物です。

「Built」も「Unbuilt」
にもつながる!

建築家の
石見美術館が
描いた「海の博物館」
の建築家も
トクシキ
様です。

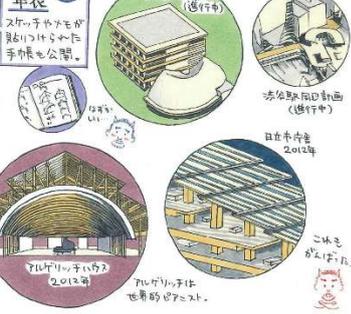
Ongoing
実現予定の建物

いま予定に計画中で、
これからできあがる建物。

鳥根県立石見美術館
(進行中)

赤瓦の壁の計画
(進行中)

日本市庁舎
2012年



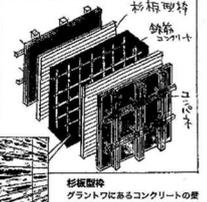
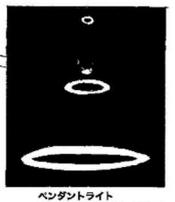
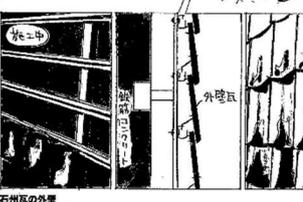
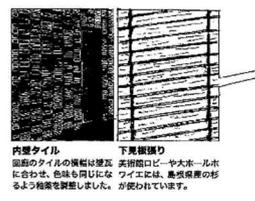
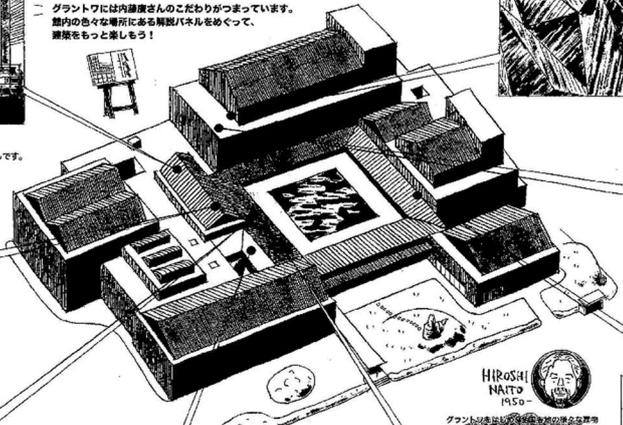
Unbuilt
実現しなかった建物

「Unbuilt」は、設計されたが
実現しなかった建物のこと。学生時代の課題
やコンクが実現しなかった赤瓦と
青瓦のアイデアも紹介されています。

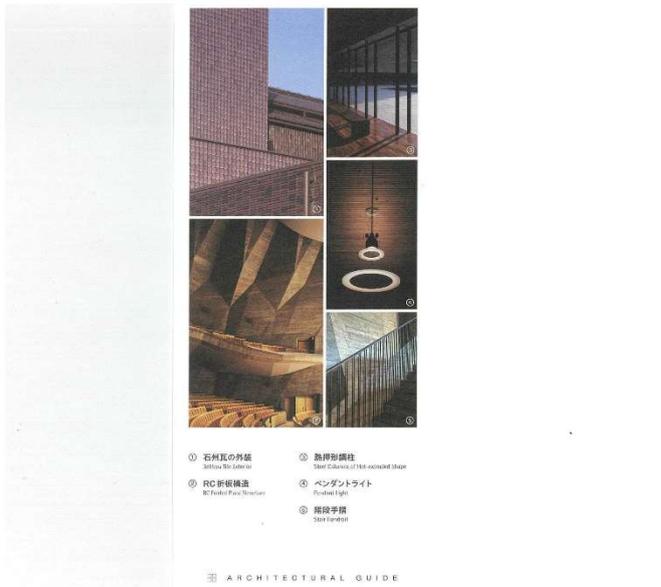
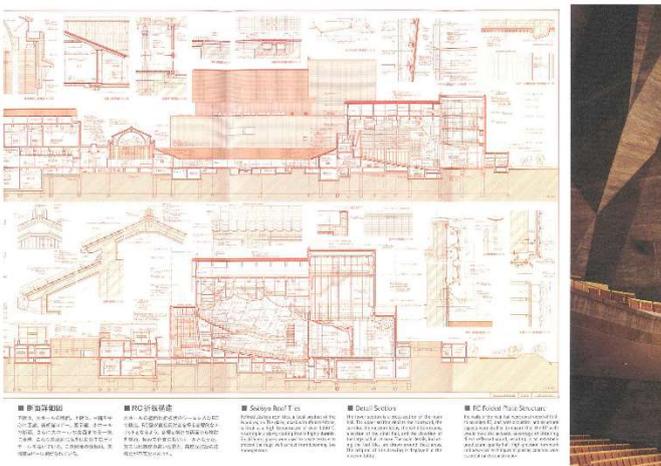


イラスト解剖図

グラントフには内藤廣さんのこだわりが詰まっています。
壁内の色々な場所にある解説パネルをめぐって、
建築をもっと楽しもう!



※展覧会鑑賞ガイド



1. 石州瓦の外装
建築設計は和風建築を模倣しようとしたが、現代建築と伝統建築の両方の特徴を表現するために、石州瓦の外装を採用した。これは、石州瓦の伝統的な美しさを現代建築に引き継ぐことで、新旧の対比を生み出した。
2. 鉄骨造構造
鉄骨造構造を採用し、建築工場の入念な検査を行い、最大24mの鉄骨構造を7層にわたって行っている。各層間の柱の断面は異なるサイズである。また、鉄骨造構造を採用することで、建築コストを削減した。
3. 鉄骨造構造
鉄骨造構造を採用し、建築工場の入念な検査を行い、最大24mの鉄骨構造を7層にわたって行っている。各層間の柱の断面は異なるサイズである。また、鉄骨造構造を採用することで、建築コストを削減した。
4. ペンダントライト
天井から吊り下げられたペンダントライトは、この建物に欠かせない特徴である。直径45cmの円形ペンダントライトは、天井から吊り下げられており、天井の構造を露出させている。また、天井の構造を露出させていることで、天井の構造を強調している。
5. 階段手摺
階段の手摺は、鉄骨造構造を採用し、120mmの鉄骨をそのまま使用している。これは、鉄骨造構造の特徴を強調している。また、鉄骨造構造を採用することで、建築コストを削減した。

1. Skilaps Tile Facade
The main exterior walls consist of Skilaps tile outside walling from the RC frame through a steel base, while the lower level and glass walls are made of two types of tile. The top organic compound wall is made of stone with a stone-effect tile and the lower level is made of stone with a stone-effect tile.
2. RC Folded Plate Structure
After carefully analyzing the reinforcement framework, and the construction method using a partial method, the 21-meter-high main hall casting form was divided into three layers and finished. Spraying process was finished at the top of the framework of each layer, and the complex force bridge was realized through rigid three-dimensional joint reinforcement.
3. Steel Columns of Flat-extended Shape
The steel columns of the corridor bridge are covered with a mark of a wide-spread flat-extended shape. These columns supporting the steel frame of the ceiling are cast under the eaves of the corridor. Careful attention was paid to the shape of the steel columns for the extended flat-RC. The flat-extended shape is made for reducing steel beam bending to around 1/2000.
4. Pendant Light
The pendant light in the foyer of the main hall was custom-made for this building. Acrylic rings with diameter of 1m and three diffuser light to cover a wall glow. This glowing ring is human scale in the space, with a simple, large-scale impression, 10 meters and is wide enough to provide a lively impression.
5. Stair Handrail
The required handrail is made of two types of steel bars combined and embedded in the floor at a pitch of 180mm. Both the base of 38 x 16mm were used for the coping. Although the mechanical properties of the steel are a protective and decorative handling, it has been widely used as a standard in Naha Acrylic: A Apartments project since then.

※建築案内パンフレット

②島根県立美術館「島根ゆかりの美術」調査研究及び普及啓発事業
事業費：2,249,205円

ア 植田正治生誕110年記念『植田正治と塩谷定好』

植田正治生誕110年を記念して、郷土ゆかりの写真家・植田正治と塩谷定好を紹介する展覧会を開催しました。

島根県立美術館のコレクションを中心に、出雲・松江を撮影した個人蔵の作品も借用して展観し、日々暮らしている土地の美しさをあらためて感じ、神話の地という豊かさを再発見する機会となりました。

作品を借用するための輸送費・マット装経費、パネル、パンフレットの作成など、寄附金により実現することができました。

その結果、身近な場所が貴重な作品になっていることを広く知っていただくことができました。

また、以前の寄附金活用事業で制作した『写真家・植田正治の物語』に続き、『写真家・塩谷定好の物語』をこの度作成することができました。

ふたつのパンフレットによって、郷土ゆかりの2人の写真家により親しみをもってもらえたとともに、両者の心温まる交流も知ってもらうことができました。

14歳違いの2人は、「芸術写真」と「モダニズム」という作風の違いをもっており、同じ山陰の子供たちや海・砂浜を撮影しているだけに、その違いもより分かっていただきやすくなりました。



左.植田正治《カコ》1949年 島根県立美術館蔵
右.塩谷定好《児女と静物(其二)》1932年 島根県立美術館蔵



植田正治生誕110年記念

植田正治と塩谷定好

2024 1.18木 ▶ 4.15月 島根県立美術館 展示室4

1 写真家としての出発

1927年、塩谷定好は東京府立第一高等学校で写真部に入部した。この頃、彼は『写真』という雑誌を創刊し、自ら編集長を務めた。この雑誌は、戦前戦後の写真界に大きな影響を与えた。定好は、この雑誌を通じて、写真の芸術性や社会性を主張し、写真家としての道を歩んでいくことになる。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

3 玲一の死と海蔵寺

この章では、塩谷定好の代表作の一つである『玲一の死と海蔵寺』について詳しく解説する。この作品は、戦前戦後の社会情勢を背景とし、人間の苦悩や死のテーマを扱った傑作である。定好は、この作品を通じて、社会の暗黒面を鋭く描き出し、読者の心を揺さぶった。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

5 海に挑む

この章では、塩谷定好の『海に挑む』について解説する。この作品は、戦後の社会情勢を背景とし、人間の挑戦や希望のテーマを扱った傑作である。定好は、この作品を通じて、戦後の社会の現状を鋭く描き出し、読者の心を揺さぶった。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

2 島根半島撮影の旅

この章では、塩谷定好の『島根半島撮影の旅』について解説する。この作品は、戦前戦後の社会情勢を背景とし、人間の苦悩や死のテーマを扱った傑作である。定好は、この作品を通じて、社会の暗黒面を鋭く描き出し、読者の心を揺さぶった。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

4 灯燭油煙修整

この章では、塩谷定好の『灯燭油煙修整』について解説する。この作品は、戦前戦後の社会情勢を背景とし、人間の苦悩や死のテーマを扱った傑作である。定好は、この作品を通じて、社会の暗黒面を鋭く描き出し、読者の心を揺さぶった。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

6 戦後の再評価

この章では、塩谷定好の戦後の再評価について解説する。戦後、定好の作品は再び注目を集め、その芸術的価値や社会的意義が再認識されるようになった。この章では、その経緯や背景について詳しく解説する。



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅



写真：塩谷定好撮影、昭和初期の自宅

※写真家・塩谷定好の物語 パンフレット

イ 受贈記念Ⅱ IKKO'S AMERICA 展

島根県立美術館の奈良原一高作品は、2021年度の寄贈によって、世界一のコレクションになりました。

2022年度につづき、2023年度には、受贈記念の第二弾を開催しました。

年に1回初期の作品から展観してきましたが、今回は作家が30代末から40代の4年間を過ごしたアメリカ時代に焦点を当てています。

世界的な評価を確立した時期にあたります。

本人が撮影した当初プリントしたヴィンテージ・プリントといわれる貴重な作品群を展観することが出来、多くの人々を魅了しました。

「受贈記念Ⅱ IKKO'S AMERICA」の広報用のはがきを作成することができました。

昨年の寄附金事業で制作した『写真家・奈良原一高の物語』を活用しました。

『写真家・植田正治の物語』、『写真家・塩谷定好の物語』とともに好評をいただいています。

奈良原一高は、深い思索を巡らして作品をつくっています。

パネルを作成して、作家の言葉など紹介しました。



受贈記念Ⅱ

IKKO'S AMERICA 10.5¹/₁ » 2024.1.15²/₂

島根県立美術館
展示室4

受贈記念Ⅱ
IKKO'S
AMERICA

10.5日 MON >> 2024.1.15 MON

島根県立美術館 展示室4

奈良原一高《二つのゴミ袋—ニュー・メキシコ、1972（消滅した時間）より》1972年 島根県立美術館蔵
© Ikko Narahara Archives

【開館時間】 10:00-18:30
(展示室への入場は18:00まで)

【休館日】 火曜日
(ただし12月12日、12月19日、1月2日は開館)、
12月28日～1月1日

観覧料
一般: 300円
大学生: 200円
高校生以下無料

※全両面と両日に観覧の場合は半額になります。
※身体障害者手帳(障害者手帳アプリ:ミライID)、
療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
被爆者健康手帳をお持ちの方、及びその付添の方は無料。

◎美術講座 聴講無料

講師: 高谷典子(当館主任学芸員)
日時: 10月29日(日) 14:00～(13:30開場/約90分)
会場: 美術館ホール(190席/当日先着順)
演題: 'IKKO'S AMERICA 奈良原一高のアメリカ時代'

島根県立美術館

〒690-0049 島根県松江市柏師町1-5
TEL.0852-55-4700 FAX.0852-55-4714
<https://www.shimane-art-museum.jp>

※受贈記念Ⅱ IKKO'S AMERICA 広報用資料



※IKKO'S AMERICA 会場



6 子どもの読書活動の促進に関する事業

(1)対象事業

- ①ビブリオバトル島根県大会開催事業
- ②おすすめしたいこどものほん事業

(2)事業の成果及び事業費

①ビブリオバトル島根県大会開催事業

言葉の力や表現力によって、高校生たちが互いに本の魅力を紹介し、最も読みたくなった本を参加者の投票で決定するビブリオバトルの島根県大会を開催しました。

事業費：241,444円

県内の高等学校から12名の高校生が発表者として参加し、全国高等学校ビブリオバトル2023島根県大会を開催しました。

当日は発表者それぞれが、読んで面白いと思った本を紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に、観戦者や運営スタッフを含む参加者全員の投票で「チャンプ本（最多票を集めた本）」を決めました。

この大会を通じて、開催の趣旨である「人を通じて本を知る。本を通じて人を知る。」というビブリオバトルの理念に基づき、読書活動を推進し、言語能力・コミュニケーション能力の向上を図る機会とすることができました。

<開催概要>

日時：令和5年12月9日（土）12:30～16:15

場所：ビックハート出雲

大会参加者：約90名（発表者、運営スタッフを含む）





※ビブリオバトル島根県大会開催の様子

②おすすめしたいこどものほん事業

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」に掲載する図書を購入し、市町村図書館等への貸出や巡回展示を実施しました。

事業費：2,515,000円

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」（乳幼児向け、小学生向けの2種類）に掲載する本の選書、並びに図書の購入を行い、県民や図書館、学校等の団体に貸出を行いました。

市町村図書館、幼稚園、読み聞かせボランティア等の活動に役立てるために、県立図書館地域支援室と西部読書普及センターの2箇所にもリストに掲載された図書を整備し、8つの市町村で巡回展示を実施しました。

県立図書館では7月から9月の3か月間、子ども室前のスペースで「おすすめしたいこどものほん2023」の資料展示を行い、夏休み中の子どもたちに貸出・利用されました。

<購入冊数内訳>

- ・県立図書館子ども室 選書・貸出用 721冊
- ・県立図書館地域支援室 貸出・巡回展示用 318冊
- ・西部読書普及センター 巡回展示用 154冊 合計1,193冊



※県立図書館での資料展示の様子

7 竹島の領土権の確立に関する事業

(1)対象事業

竹島領土権早期確立対策事業

(2)事業の成果及び事業費

竹島問題の解決に向けた国民世論の啓発を図るための広報啓発活動事業を実施しました。

事業費：5,185,197円

ア 「竹島問題を考える講座」の開催

竹島問題への理解を深めるため、竹島問題の研究者等を講師に招き、一般向けの講演会を3回開催しました。

	講 師	会 場
第1回	県竹島問題研究会委員 藤井賢二氏	松江市
第2回	県竹島問題研究特別顧問 下條正男氏	隠岐の島町
第3回	県竹島問題研究顧問 升田優氏	浜田市

イ 広報啓発資料等の作成

竹島問題の啓発を図るため、啓発資料や啓発用グッズ等を作成し配布しました。

<啓発グッズ>

リーフレット10,000部、トートバッグ2,500枚、ボールペン2,500本
クリアホルダー2,500枚、ステッカー 1,500枚、缶バッジ1,500個等

ウ 竹島資料室の展示内容等の充実

(ア) 出張竹島資料室の開催（7月：江津市、8月：安来市）

竹島資料室展示資料の出張展示を県内2会場で実施しました。

(イ) 夏季企画展示の開催（7月19日～8月28日）

夏休み期間中に子供たちに向けた企画展示を実施しました。

(ウ) 竹島の日記念特別展示の開催（1月31日～3月25日）

「第5期島根県竹島問題研究会 中間報告」をテーマに特別展示を実施しました。

(工) 学生解説員の委嘱（7月5日～3月31日）

竹島問題の啓発に資するため、大学生5人を学生解説員として委嘱し、7月20日から3月31日までの毎週土曜(8及び9、3月は毎週木曜日も実施)竹島資料室に来室された希望者に竹島問題に係るスライドを使い解説を行いました。



※第2回竹島問題を考える講座



※出張竹島資料室（安来市）



※夏季企画展示



※竹島の日記念特別展示

8 森林の保全及び整備に関する事業

(1)対象事業

県民の森整備費（森林林業体験活動推進事業）

(2)事業の成果及び事業費

景観維持・安全確保・快適利用のため、県民の森の環境整備を実施しました。
事業費：3,973,686円

県民参加の森づくり活動の一環として、気軽に参加できる講座を充実させて、県民が森林や自然とふれあう機会を創出しました。

これにより県民が森林や林業に対する理解を深め、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく県民意識の醸成を図りました。

令和5年度は12回の県民の森ふれあい講座を開催し、登山や木工体験に延べ172人の参加がありました。

また、森林林業体験活動のフィールドとなる県民の森において、枯損木の除去や遊歩道の整備・修繕など環境整備を行い、景観の維持、訪れた利用者の安全確保と快適利用を図りました。



※紅葉の指谷山ブナ林縦走



※間伐材(丸太)で椅子作り

9 防災対策の推進に関する事業

(1)対象事業

地域防災人材育成研修事業

(2)事業の成果及び事業費

地域の防災力向上に向けて、地区防災計画の策定を支援する実務研修を実施しました。

事業費：954,460円

ア 島根県地区防災計画の作成に関する実務研修

- 目的：災害対策基本法第42条第3項に規定される「地区防災計画」の策定を通じて「自助・共助」の取組を推進し地域人材育成を図る。
- 講師：跡見学園女子大学
観光コミュニティ学部教授 鍵屋 一 氏
- 日時・場所：令和5年10月7日（土）13:00～16:00
江津市総合市民センター 2階大会議室
- 参加人数：26名

日時：令和5年10月7日（土）13時00分～16時00分【12時30分から受付開始】

場所：江津市総合市民センター（江津市江津町1110-17） 2階大会議室

参加費：無料 / 申込締切9月8日（金）

災害から大切な命を守るためには「公助」だけではなく、自分の身は自分で守る「自助」と近所の人等と助け合う「共助」が重要です。

「自助」と「共助」の取組を進めるためには、いざという時に備え、地域のマイルールをあらかじめ定めた【地区防災計画】の作成が有効です。

地域全体の防災力を高めるため、地区防災計画の作成方法や考え方について学ぶ実務的な研修を開催します。

定員：40名程度（定員を超過した場合は、先着順）
※車でお越しの場合は、江津市総合市民センターの駐車場をご利用ください。

<講師>

かぎや はじめ

跡見学園女子大学 教授 鍵屋 一 氏

1956年、秋田県男鹿市生まれ。早稲田大学法学部卒業後、板橋区役所入区。2000年、法政大学大学院政治学専攻修士課程修了。板橋区役所で防災課長、板橋福祉事務所長、福祉部長、危機管理担当部長（兼務）などを経て2015年3月退職。同年、京都大学博士（情報学）取得。2015年4月より現職。法政大学大学院兼任講師、名古屋大学大学院兼任講師も務める。国の検討会の座長のほか、内閣府地域活性化伝道師、（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事、（一社）防止普及協会理事、認定NPO法人災害福祉広域支援ネットワークサンダーバード理事を務める。著書に「図解よくわかる自治体の地域防災・危機管理のしくみ」（2019年、学陽書房）、「地域防災力強化宣言」（2005年、ぎょうせい）など。



（お申込方法）

しまね電子申請サービス、FAXまたはメールによりお申込ください。
申込みに関する詳細は、別紙のとおり。

主催：島根県防災部防災危機管理課



イ 防災啓発チラシの作成

「風水害・土砂災害からあなたと大切な人の命を守るために」

**風水害・土砂災害から
あなたと大切な人の命を
守るために**

— 警戒レベル4 避難指示までに必ず避難!! —

警戒レベル	避難情報等
警戒レベル5 ^{※1} 命の危険 直ちに安全確保！	災害発生又は切迫 緊急安全確保（市町村が発令） 既に災害が発生又は切迫している状況です。命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう。
<警戒レベル4までに必ず避難！>	
警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	避難指示（市町村が発令） 災害が発生する危険が高まっています。速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。
警戒レベル3 ^{※2} 危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難（市町村が発令） 避難に困難を呈する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を高めましょう。
警戒レベル2	洪水注意報・大雨注意報等（気象庁が発表） 避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル1	早期注意情報（気象庁が発表） 災害への心構えを高めましょう。

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

ウ 防災安全講演会

- 題目：地区防災計画の取組を通じた自主防災活動
- 講師：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構地域研究強靱化研究センター 創造工学部防災・危機管理コース 併任
(特命准教授) 磯打 千雅子 氏
- 日時・場所：令和5年12月16日(土) 10:00~12:00
益田合同庁舎 5階大会議室
- 参加人数：58名

令和5年度 防災安全講演会

地区防災計画の取組みを通じた 自主防災活動

参加無料

災害に強い地域づくりを進めるためには、地域での助け合い、支え合いが大切です。いつ起きるか分からない災害に備え、事前にできること(計画)の重要性と「共助」について考えます。

講師
西川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
地域強靱化研究センター
創造工学部 防災・危機管理コース併任(特命准教授)
いそうち ちかこ
磯打 千雅子 氏

定員100名
申込締切 12月1日(金)

日時 令和5年12月16日(土)
10:00~12:00(9:30 開場)
※天候等により講演会を中止することがあります。中止する場合は、電報連絡します。

会場 島根県益田合同庁舎 5階 大会議室
(〒698-0007 益田市昭和町13-1)
※お車でお越しの方は、島根県益田合同庁舎の駐車場をご利用ください。

お申込み方法は裏面をご覧ください。

お問合せ先 島根県防災部防災危機管理課 TEL:0852-22-5885

主催/島根県

10 移住・定住の促進に関する事業

(1)対象事業

ふるさと島根定住推進事業

(2)事業の成果及び事業費

ふるさと島根定住財団を中心に、市町村や関係団体と連携し、移住相談イベントを実施しました。

事業費：46,816,000円

ア しまね移住ワンダーランドの実施

移住・定住の促進を図るため、Uターン・Iターン希望者に対して相談・人材誘致のために大規模バーチャルイベント「しまね移住ワンダーランド」を実施しました。

<開催日>令和5年12月9日(土)

<イベントサイト来訪ユーザー数>2,667名

VIRTUAL FAIR 2023
しまね移住ワンダーランド
オンライン開催

イベント開催サイト
11/11 WED 2023 **OPEN!**
2023 **12/9**
[SAT] 10:00-16:00
<https://shimane-web.jp>

SPECIAL 1 チケット発券した希望者全員プレゼント
SPECIAL 2 アンケートに答えてGET
SPECIAL 3 クイズラリーに挑戦!

しまねご当地クイズツアー
皆さんがご当地ハンターとして、会場内にまきばめられた「ご当地」からヒントをゲットし、穴埋めのクイズを完成させてください。

1	あ		や
2		じ	よ
3	ほ		き
4	こ	に	ない

参加費無料
予約不要
入場自由

島根を離れて帰郷でもターマパーク「しまね移住ワンダーランド」がOPEN! 様々なテーマで楽しめるトークイベント「KAMIAJIステージ」も、お楽しみください!

公益財団法人ふるさと島根定住財団
TEL: 0852-28-0690 E-mail: fukunag@shimane.jp

しまね移住

イ しまね移住体感オンラインツアーの実施

島根県をオンライン上で訪問するツアー型移住交流イベント「しまね移住体感オンラインツアー」を実施しました。

<開催テーマ（参加者数）>

仕事（123名）、近所づきあい（90名）、移住のネック（151名）

**しまね移住体感
オンラインツアー**
vol.3 移住のネック編

**特別企画
「島根クイズ」**
イベント開催中にリアルタイムで参加できるクイズ企画を実施！
上位10名様には特産品をプレゼント！

プログラム

1 13:30-13:40
オープニング 当日の流れや高校の概要をご紹介します！

2 13:40-14:35
先輩移住者トーク
こんなはずじゃなかった、こんなことを事前に関わるべきだった、という先輩移住者のリアルな声を紹介します。

case 1
藤岡さん
(大原町から益田市に1年)
自然に開かれた暮らしのリアルを伝えるやむを得ずを正面にお伝えします！

case 2
竹内さん
(伊豆市から江津市に1年)
私が感じた移住のネックや田舎暮らしを楽しむ方法を紹介します！

case 3
田中さん
(浜田市から出雲市に1年)
移住での子育て事情や、移住時特に感じていた色々な不安の乗り越え方を紹介します！

3 14:35-14:55
**市町村
プレゼンテーション**
島根県内の4つの市町村担当者から移住の魅力を紹介します！

4 14:55-15:20
交流タイム
先輩移住者と参加市町村担当者からぶっちゃけトークを聞くことができます。交流タイム。聞きたいことを自由に質問することもできます！

5 15:20-15:30
エンディング
特産品プレゼント応募キーワードやスクラッチし当選番号を発表！

15:30-16:00
**交流タイム
延長戦**
ご希望の方のみ、交流タイム延長戦にご参加いただけます。

ご案内

- ツアー当日は、本館にご案内するURLへアクセスください。
- WEB会議ツール(Zoom)を準備します。パソコンでのご参加をおすすめします。
- インターネット接続環境が必要となります。
- Zoomは無料ですが、追加料金はお客様のご負担となりますのでご了承ください。
- 「島根クイズ」に参加される場合には、PC or タブレット (Zoom使用用) と共に「スマートフォン(クイズ回答用)」が必要となります。
- PC or タブレットがなく、クイズ企画に参加できない場合でも本ツアーへのご参加には変更ありませんのでぜひご参加ください！

【注意事項】●定座したインターネット環境のある場所でのご参加をおすすめします。●当日は、10分前までにZoomに入室してください。●申込時にご登録いただいたメールアドレスへ、申込後3営業日以内に確認メールをお送りします。また、開催直前各社にて、ツアーに関するZoomのURL (ID、パスワード含む) を送信します。各種メールが届かない方は、事務局までお知らせください。

お申し込みについて **定額100名**

お申込みの際は、特設サイトのお申込みフォームにて必要事項をご記入ください。確認後、事務局より3営業日以内にご連絡をさせていただきます。その他、ご不明な点はお問い合わせください。

1次抽選 2/29 (木) **最終抽選** 3/8 (金)

お問い合わせ

ツアーに関するご相談
しまね移住体感オンラインツアー運営事務局
✉ shimane.onlinetour@gmail.com
☎ 080-3052-3386

移住に関するご相談
ふるさと岩根定住財団 Uターン推進課
✉ uturn@leiju.or.jp
☎ 0852-28-0690

**ツアーの最新情報はこちら！
公式サイトを見てね！**
https://www.kurashimanet.jp/shimane_onlinetour2023/migration-neck/

しまね移住
誰かの誰かの、
たからもの。

ウ 対面型移住相談イベントの実施

U・Iターンを希望する方向けに対面型移住相談イベントを開催しました。

<大阪会場（グランフロント）>

- ・開催日：令和5年7月15日（土）
- ・参加者数：140名



<東京会場（国際フォーラム）>

- ・開催日：令和5年11月19日（土）
- ・参加者数：461名



1 1 結婚・出産・子育ての支援に関する事業

(1)対象事業

- ①しまね保育実習等旅費支援事業
- ②低出生体重児支援事業

(2)事業の成果及び事業費

①しまね保育実習等旅費支援事業

県内での就職を促すため、県外の学生が県内保育所などで実習する場合の旅費の一部を助成しました。

事業費：580,300円（内、ふるさと島根寄附金464,000円）

卒業後に島根県内での就職を促すとともに、ひいては子どもを安心して育てることができる環境整備を目的に、平成29年5月から事業を開始しました。

主に広島県、岡山県など中国地方を中心に、県外にある指定保育士養成施設の学生33名に対し、島根県内の保育所等で実施した保育実習、就業体験及びボランティアにかかる旅費を助成しました。

旅費を助成した33名のうち、令和6年3月に卒業の学生は、14名でした。

そのうち進路先が判明している13名のうち、11名の方が島根県内の保育所等に就職が決定し、現在各保育所等で保育士として活躍されています。

<事業内容>

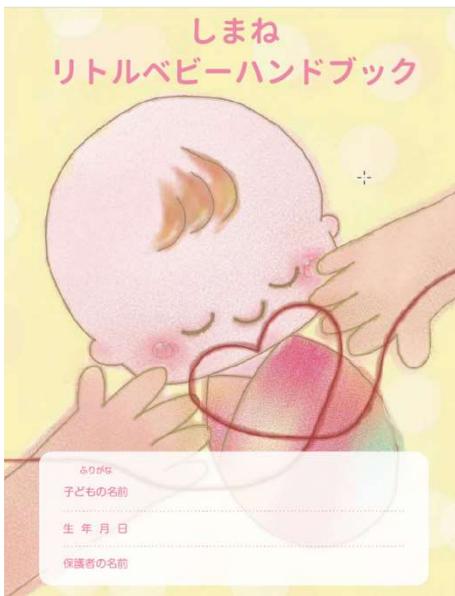
- ・旅費助成：33名
- ・事業啓発用チラシ作成、郵送

ッセージをたくさん掲載しています。

- 出生直後から離れて生活する赤ちゃんの育児方法も記載しました。
- 赤ちゃんのペースに合わせた発育が確認できるよう、性別、出生体重別の身体発育曲線が使えます。
- 県内の各種支援、相談先へアクセスできます。

ウ 成果

出生直後から不安を感じている家族が安心感を得ながら、支援者や地域の皆とともに赤ちゃんの成長する喜びを感じられる冊子ができました。



第1章 赤ちゃんのママ・パパになったあなたへ	
しまねリトルベビーサークル縁 一同からの応援メッセージ	2
先輩ママからのメッセージ	4
先輩パパからのメッセージ	6
大きくなったリトルベビーからのメッセージ	7
支援者からのメッセージ	8
出産後のママのこころとからだ	10
NICUでの赤ちゃんの生活と、ご家族とのかかわり	12
第2章 生まれたときから退院までの記録	
生まれたときの様子	14
入院中の治療等の記録	16
退院のときの記録	18
第3章 成長と発達との記録	
月齢ごとの記録	20
身体計測の記録	46
初めてのきろく	52
第4章 知っておきたいこと	
小さく生まれた赤ちゃんの治療のこと	54
退院したあとの注意点	55
お口の特徴	56
よくある質問	58
困ったときの相談先	60
ママ・パパたちの活動紹介	62

※しまねリトルベビーハンドブック 冊子



※啓発用（ポスター、チラシ）